

会報 「ほーれん」

発行所

法蓮寺護持会

〒142-0064
品川区旗の台3-6-18
TEL 03-3781-4011
FAX 03-3782-4094

No. 70

平成28年6月1日

法蓮寺ホームページ <http://www.hourenji.or.jp/>

Eメール info@hourenji.or.jp

「心は身延山に住むべく候」

今さら申し上げるまでもなく、身延山久遠寺は、日蓮聖人開創のお寺で、日蓮宗の總本山です。今から約七百五十年の昔、鎌倉時代、日蓮聖人六十一年のご生涯の晩年、五十三歳から六十一歳の足かけ九年間をお過ごしになりました。

お過ごしになられたといつて、今の身延山を思い浮かべてしまうかもしれません

が、日蓮聖人がいらつしやったのは、現在「御草庵跡」として、身延山西谷御廟域の一角に護られているところです。現在の境内と比べこぢんまりとしていて驚く方もいらっしゃるでしょう。当然、そこにお寺があつたわけでも、立派なお堂があつたわけでもなく、身延山ご到着後一月足らずで建てられた粗末な草庵が身延山久遠寺の始まりなのです。

それというのも、日蓮聖人のそれまでの五十三年間の人生は、一所に落ち着いていられない苦難の連続でした。安房の国小湊（千葉県鴨川市）にお生まれになり、出家して清澄にて得度され勉学し、その後、京都、奈良、あるいは比叡山、高野山等の近畿圏にて勉学、御修行され、戻られて清澄、そして鎌倉、街頭に立ち布教をすれば迫難に遭い、伊豆、あるいは佐渡へと流罪になつて鎌倉を追われ、

は佐渡へと流罪になつて鎌倉を追われ、

簡年の間心安く法華経を誦誦し奉候山なれば、墓をば身延山に立させ給へ。未来说まで心は身延山に住むべく候」とご遺言されました。身延山を心から愛された証のことばです。

住職 滝谷幸道



しだれ桜が満開の身延山久遠寺境内

そして戻された。幕府に対する三回の国家諫諭も聞き入れてもらえなかつた後、三度諫めて用いしば山林にまじわる」の故事に倣つて入られたのが身延山といいうわけです。ですから、この地もすぐに旅立つやもと思われたのでしよう。聖人ご自身、その後九年間もお住まいになろう

ことや、まして今日の大寺院の様相は予想もされていなかつたのかもしれません。

しかし、お亡くなりになつたのは、湯治に向かう途中の、武藏の国池上宗仲公のお屋敷（大田区池上）でした。この時、

このご遺言によつて建てられたお墓は、現在でも前述の西谷「御廟所」として信仰を集めていますし、広い境内の中心に位置する「祖師堂」は別名「棲神閣」といい、今でも聖人の神（たましい）が棲んでいらっしゃるという意味で、多くのお参りがあるところです。

境内に並ぶ多くの伽藍は、これら全て明治八年にあつた大火災の後に復興してられたものです。祖師堂に向かつて左は「大本堂」。ここで行う朝のお勤めは、大勢の僧侶、学生僧による読経、大太鼓の迫力ある唱題に圧倒されます。その向かいには、平成二十年に復興された純木造の「五重塔」。境内を東に向かえば、日蓮聖人の御遺骨を奉る「御真骨堂」。全国の檀信徒の分骨を納める「仏殿納牌堂」や「客殿」等、いわゆる七堂伽藍が整備され、小さな庵が、今や、西の比叡山・高野山と並ぶ東の身延山として、一年を通じ全国からお参りが絶えない大寺院となつたのです。

今も昔も変わらないのは、お参りは「生身の日蓮聖人」にお会いすること。みなさんもまた、お参りしましょう。

富士ミルクランド

富士山の裾野に広がる朝霧高原でバーベキュー。にぎやかな昼食になりました。



富士花鳥園

花いっぱいの別天地。フクロウやペンギン、水鳥なども。

身延山久遠寺へ団体参拝

4月2~3日 信仰と親睦深める旅

4月2日～3日の一泊二日で、日蓮宗の総本山である身延山久遠寺へ団体参拝旅行に行つてきました。

2日朝8時、一行28名はバスで法蓮寺を出発。

五反田から新東名高速でまずは静岡県富士宮市にある北山本門寺に参拝。昼食は、富士ミルクランドでバーベキューを楽しみ、富士花鳥園では咲き誇る花々を堪能し、いろんな種類の鳥とふれあいました。宿泊は山梨県の下部ホテルへ。温泉と宴会で親睦を深めました。

翌朝9時、ホテルを出発しいよいよ身延山へ。法蓮寺三十九世日詮上人とゆかりのある祖師堂でお開帳を受けた後、境内を散策し日蓮聖人のご在世に思いを馳せました。

松井坊さんで精進料理をいただいた後、三河屋さんや里の駅いちのみやで買い物も楽しみ帰路に就きました。身延山はちょうど桜満開の見頃で、特に樹齢四百年のしだれ桜は圧巻。お天気にも恵まれ、日蓮聖人の御廟所に感謝と報恩のお題目をお唱えすることができました。



大本山 北山本門寺

静岡県富士宮市にある日蓮宗の大本山・北山本門寺を参拝し、お開帳を受けました。

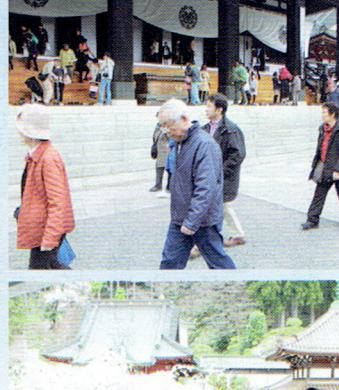
【北山本門寺】 永仁6年（1298）開創。日蓮聖人の直弟子・日興上人が聖人の滅後身延を下り、南條時光の招きで富士上野に移り大石ヶ原に草庵を結んだ。富士門流（本門宗）の総本山だったが、昭和16年、日蓮宗・本門宗・顕本法華宗の三宗派合同により日蓮宗に。



日蓮聖人御廟所



御草庵跡



松井坊さんで 精進料理

1364年に開かれた歴史ある松井坊さん。厳かで清浄な空気に包まれ、美味しいお料理で日程をしめくくりました。



信玄隠し湯の 下部ホ

楽しいひ
過ぎ



法蓮寺を支えてくださる皆さん。お寺や信仰のお話をはじめ、夜遅くまで楽しく交流しました。

身延を離れ

常陸の湯へ



一頁でご紹介したとおり、日蓮聖人はご病気のため九ヵ年住まわれた身延山を離れ、常陸に向かう途中で亡くなりました。

日蓮聖人の頑健な肉体に支障が見え始めたのは、建治三年（一二七七）の頃のことといわれます。状態は悪化する一方でした。そこで周囲のすすめもあり、常陸に身延の領主・波木井氏の所領があり、温泉が湧くというのでそちらへ向かうことになりました。

弘安五年（一二八二）九月八日、波木井殿一行の見送るなか、秋深まる身延を発つて池上へ向かいます。住み慣れた身延山を離れる心持ちはどん

なものであったでしょうか。弘安五年（一二八二）九月十八日、十日をかけて武藏国池上氏の邸に着きました。馬の背に揺られ十日の長旅で、日蓮聖人の体は一層衰えました。聖人は弟子に代筆させ、「波木井殿御報」のなかで波木井氏の丹精に感謝するとともに、万が一のときには身延山にお墓をつくってほしいと遺言されました。

（右馬に乗られ身延を発つ日蓮聖人と、見送る波木井殿一行。
左池上宗仲邸に到着、支えられて歩き連ばれる日蓮聖人。）

十月八日になると、日蓮聖人は日昭・日朗・日興・日向・日頂・日持を弟子の代表（六老僧）と決め、今後六人が心を一つに法華経の救いを伝えいくよう伝えました。

ご入滅なされたのは、十月十三日辰の時（朝八時ころ）。伝説によると、そのとき地震が池上の全山を揺るがし、時ならぬ桜の花が咲いたといいます。ご入滅の座に集まつた弟子・信徒は臨滅度時の鐘を打つてご入滅を悲しみました。

池上で荼毘に付され、そして遺言通り、百カ日には身延山上本門寺として、ご入滅の邸宅跡は本門寺山内の大坊本行寺として今日に伝えられています。

ご存知の通り、池上邸は池上本門寺として、ご入滅の邸宅跡は本門寺山内の大坊本行寺として今日に伝えられています。

法蓮寺

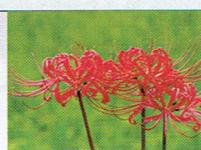
行事案内

お誘い合わせてお参りください



7月6日（水）午後2時 法要
施餓鬼法要

「先祖さまと餓鬼道に落ちて苦しんでいる無縁さんをご供養します。また、満たされることなくむさぼり続ける「心の餓鬼」を追い出す意味もあります。」



秋季彼岸会

9月22日（祝）午後2時 法要

今年は9月19日～25日が秋のお彼岸です。お彼岸は仏道修養に努める期間でもあります。お中日に法要を行いますので、ぜひご参列ください。



お会式

10月16日（日）

午後5時 法要
午後7時 万灯

日蓮聖人のご命日の前後、日蓮宗のお寺では報恩感謝の法要を行います。当山では池上本門寺に続いて16日。近辺の講中が次々と万灯奉納に訪れます。境内には出店も並びにぎわいます。

法蓮寺では毎月12日午後6時から信行会を行っています。本堂で法華経を読んでお題目を唱え、法話や写経もあります。日常から離れて、心穏やかに過ごす時間を持ち、お気軽にご参加ください。

十二日信行会



新年のお札

12月22日より新年のお札を配布します。「希望の方はお寺までお越しください。遠方の方には郵送致しますので、ご一報ください。」

（お配りするお札）

○御守護札

玄関に貼り、表から家中に入れる炎いを防ぎます。また、その家の宗旨を表す意味もあります。

○お題目と鬼子母神のお札

仏間など仏壇のおいてある部屋に貼ります。鬼子母神様は法華經信徒を守護する神様です。

○荒神札

火災予防に、主に台所など火を使うところに貼ります。

※三種類セットで千円です